

1 計画策定の趣旨

ライフステージに応じて歯と口腔の健康づくりに関する施策を総合的に推進することで、ひいては、県民の生涯にわたる健康の保持増進に寄与することを目指す

2 計画の位置づけ

歯科口腔保健の推進に関する法律第13条及び石川県歯と口腔の健康づくり推進条例第11条に基づく、県の歯科保健計画

3 計画の期間

令和6年度から令和11年度までの6年間

4 計画の目標

歯と口腔の健康づくりに関する施策を推進し、県民の生涯にわたる健康の保持増進に寄与する

5 これまでの取組と評価

○これまでの取組

- ① 歯科疾患の予防：子どものむし歯予防対策推進事業、事業所等における歯周病予防推進事業等
- ② 口腔機能の維持・向上：高齢者施設等における口腔ケア従事者育成事業
- ③ 特に配慮が必要な分野における歯科口腔保健の推進：障害者等歯科保健指導事業
- ④ 歯と口腔の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備：歯科保健指導従事者研修会の開催等

○目標達成状況

29項目のうち、24項目において、目標達成または改善が認められた

評価区分	項目数	主な指標
A 目標値を達成	17	8020達成者の割合 35.2% (目標35%)
B 目標値との差の50%以上の改善	4	60歳代の咀嚼良好者の割合 71.5% (目標73%)
C 目標値との差の50%未満の改善	3	歯科検診を受診した者の割合 49.9% (目標52%)
D 横ばい・悪化	4	在宅療養支援歯科診療所数 40診療所 (目標増加)
E 評価困難	1	口腔衛生管理体制加算算定施設の割合 - (目標増加)
目標達成又は改善 (A+B+C/計)	24/29	-

○今後の課題

- ・こどものむし歯や成人の歯周炎の減少、歯の喪失状況の改善など、歯科疾患の有病状況は改善しているが、全国との差があり、県内の中でも地域差があることから、地域差の改善に向けた取組が必要
- ・歯科検診の実施体制は整ったが、特に歯周病検診については受診率が低く、受診率向上に向けた取組が必要
- ・国の「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項（第2次）」を参考に、フッ化物応用等に関する新たな指標の設定が必要

6 計画の基本方針

① 歯と口腔の健康に関する地域差の改善

地域や集団における歯科疾患の実態等について把握に努め、②から④に掲げる基本方針を達成すること等により、歯と口の健康に関する地域差の改善を目指す

② ライフステージに応じた歯科疾患の予防及び口腔機能の維持・向上

むし歯や歯周病等の歯科疾患の成り立ちについて、広く県民に普及啓発を行うとともに、生涯にわたって自分の口から食べることができるよう口腔機能の維持・向上を推進

③ 特に配慮が必要な分野における歯科口腔保健の推進

障害者（児）、要介護者などに対して、その状況に応じた支援を行うとともに、妊産婦や基礎疾患を有する人など、特に配慮が必要な分野における歯科口腔保健を推進

④ 歯と口腔の健康づくりを推進するために必要な社会環境の整備

歯科疾患の早期発見や災害に備えた歯科保健医療提供体制を整備するとともに、歯科口腔保健に携わる人材に対して、適切な情報を提供し研修を実施する等、資質向上に努める

第3次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画における目標値の進捗状況

基本方針	目標項目	ベースライン値 (R4)	現状値 (R5)	目標値 (R11)	全国	データソース		
歯科疾患の予防及び口腔機能の維持向上	乳幼児期	① 3歳児でむし歯のない者の割合の増加	91.6%	92.9%	95%	91.4% (R4)	地域保健・健康増進事業報告	
		② 3歳児で4本以上のむし歯のある者の割合の減少	2.3%	-	0%	2.5% (R4)		
		③ 乳幼児期においてフッ化物塗布に取り組む市町数	7市町	8市町	増加	-	健康推進課調べ	
		④ 保育所・認定こども園・幼稚園においてフッ化物洗口に取り組む市町数	7市町	11市町	全市町	-		
	学齢期	⑤ 12歳児の一人平均むし歯数の減少	0.6歯	0.6歯	0.3歯	0.55歯 (R5)	学校保健統計調査	
		⑥ 12歳児でむし歯のない者の割合の増加	72.2%	71.2%	90%	73.4% (R5)		
	成人期高齢期	⑦ 20～30歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の減少	28.1%	-	15%	24.5% (H30)	県: 県民健康・栄養調査 国: 国民健康・栄養調査	
		⑧ 歯周炎(4mm以上の歯周ポケット)を有する者の割合の減少	40歳代	46.8%	43.2%	35%	39.8% (R4)	県: 市町歯周病検診結果 国: 歯科疾患実態調査
			60歳代	58.6%	56.6%	50%	52.6% (R4)	
		⑩ 未処置歯を有する者の割合の減少	40歳: 35～44歳	32.1%	27.0%	25%	27.6% (R4)	
			60歳: 55～64歳	27.6%	27.7%	20%	26.1% (R4)	
		⑫ 40歳(35～44歳)で喪失歯のない者の割合の増加	86.2%	86.8%	90%	76.4% (R4)		
		⑬ 60歳(55～64歳)で24歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	63.0%	-	80%	80.9% (R4)	県: 県民健康・栄養調査 国: 歯科疾患実態調査	
		⑭ 80歳(75～84歳)で20歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	35.2%	-	50%	51.6% (R4)		
		⑮ 歯間部清掃器具等を使用している人の割合の増加(20歳以上)	60.3%	-	70%	-	県民健康・栄養調査	
		⑯ 喫煙と歯周病の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	44.2%	-	50%	-		
		⑰ 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加(20歳以上)	49.9%	-	60%	52.9% (H28)	県: 県民健康・栄養調査 国: 国民健康・栄養調査	
		⑱ 歯周病検診受診率の増加(40, 50, 60, 70歳の節目年齢)	6.9%	6.4%	10%	-	健康推進課調べ	
		⑲ 後期高齢者歯科健診実施市町数	10市町 (R5)	10市町 (R6)	増加	-		
		⑳ ゆっくりよく噛んで食事をしている人の割合(20歳以上)	54.4%	-	増加	47.3% (R2)	県: 県民健康・栄養調査 国: 食育に関する意識調査	
	㉑ 50歳以上における咀嚼良好者の割合の増加	68.8%	-	80%	72.2%※1 (R1)	県: 県民健康・栄養調査 国: 国民健康・栄養調査		
配慮が必要な分野	妊産婦	㉒ 妊婦歯科健診受診率の増加	45.3%	46.2%	50%	-	少子化対策監室調べ	
	障害者(児)	㉓ 障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科検診実施率の増加	90.6% (R5)	81.3% (R6)	95%	77.9% (R1)	県: 障害保健福祉課・健康推進課調べ 国: 厚生労働科学研究	
		要介護者	㉔ 口腔清掃状態と肺炎の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	48.8%	-	60%	-	県民健康・栄養調査
	㉕ 在宅療養支援歯科診療所数		40診療所 (R5)	40診療所 (R6)	増加	-	東海北陸厚生局ホームページ 施設基準の届出受理状況	
	㉖ 訪問診療(居宅)実施歯科診療所の割合の増加		8.7% (R2)	12.3% (R5)	10%	16.8% (R5)	医療施設静態調査	
	㉗ 介護保険施設(介護老人福祉施設、介護医療院及び介護老人保健施設)での定期的な歯科検診実施率の増加		11.1% (R5)	23.2% (R6)	20%	33.4%※2 (R1)	県: 長寿社会課・健康推進課調べ 国: 厚生労働省事業	
	㉘ 口腔衛生管理加算を算定している介護保険施設の割合		18.5% (R5)	20.8% (R6)	増加	-	長寿社会課調べ	
	医科歯科連携	㉙ 糖尿病と歯周病の関連を知っている人の割合の増加(20歳以上)	47.4%	-	60%	-	県民健康・栄養調査	
		㉚ 糖尿病の安定期治療を担う医療機関のうち、歯科への患者紹介実績がある医療機関数	35機関 (R5)	-	増加	-	地域医療推進室調べ	
		㉛ 周術期口腔機能管理後手術加算を算定している病院数	15病院 (R3)	15病院 (R4)	増加	-	病床機能報告	
社会環境の整備	再掲 乳幼児期においてフッ化物塗布に取り組む市町数	7市町	8市町	増加	-	健康推進課調べ		
	再掲 保育所・認定こども園・幼稚園においてフッ化物洗口に取り組む市町数	7市町	11市町	全市町	-			
	再掲 後期高齢者歯科健診実施市町数	10市町 (R5)	10市町 (R6)	増加	-			
	㉜ 歯科口腔保健に関する事業の効果検証を実施している市町数	今後調査予定	1市町	増加	29.3% (R4)	県: 健康推進課調べ 国: 厚生労働省事業		

※1 平成27年平滑化人口により年齢調整した値。年齢調整していない値は71.0%。

※2 介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率

参 考 资 料

○ 現状値の分析結果

「第3次いしかわ歯と口腔の健康づくり推進計画」巻末の参考資料（現状値の分析結果）のうち、現状値が更新できるものについて、最新のデータを掲載した。

I	乳幼児期・学齢期の歯科疾患の罹患状況	1
1	1歳6か月児歯科健診結果	1
2	3歳児歯科健診結果	3
3	保育所・認定こども園入所児の歯科健診結果	5
4	幼稚園児のむし歯の罹患状況	9
5	小学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	10
6	中学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	12
7	高校生のむし歯・歯肉炎の罹患状況	14
II	市町歯周病検診結果	16
1	歯周炎・未処置歯・喪失歯の有無（県全体の経年変化）	16
2	歯周炎・未処置歯・喪失歯の有無（保健所別の分布）	18

I 乳幼児期・学齢期の歯科疾患の有病状況

1 1歳6か月児歯科健診結果 【出典：地域保健・健康増進事業報告】

- むし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、経年的に減少しており、全国よりやや低く推移しています。
- 保健所別では、能登地区を除き、むし歯有病者率・一人平均むし歯数ともに経年的減少しています。

図1 1歳6か月児のむし歯有病者率

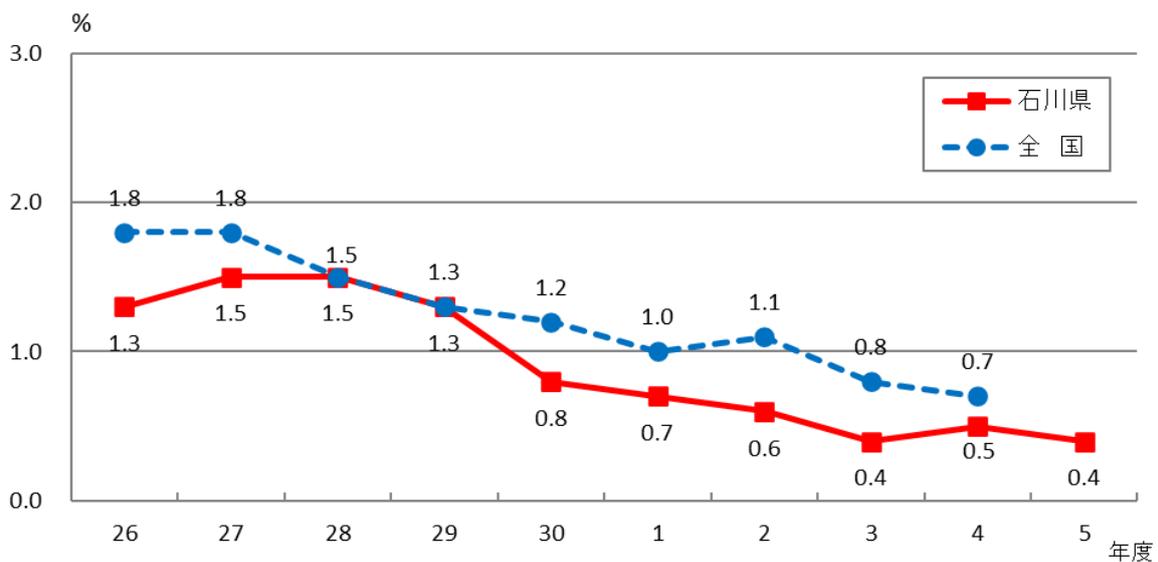


図2 1歳6か月児の一人平均むし歯数

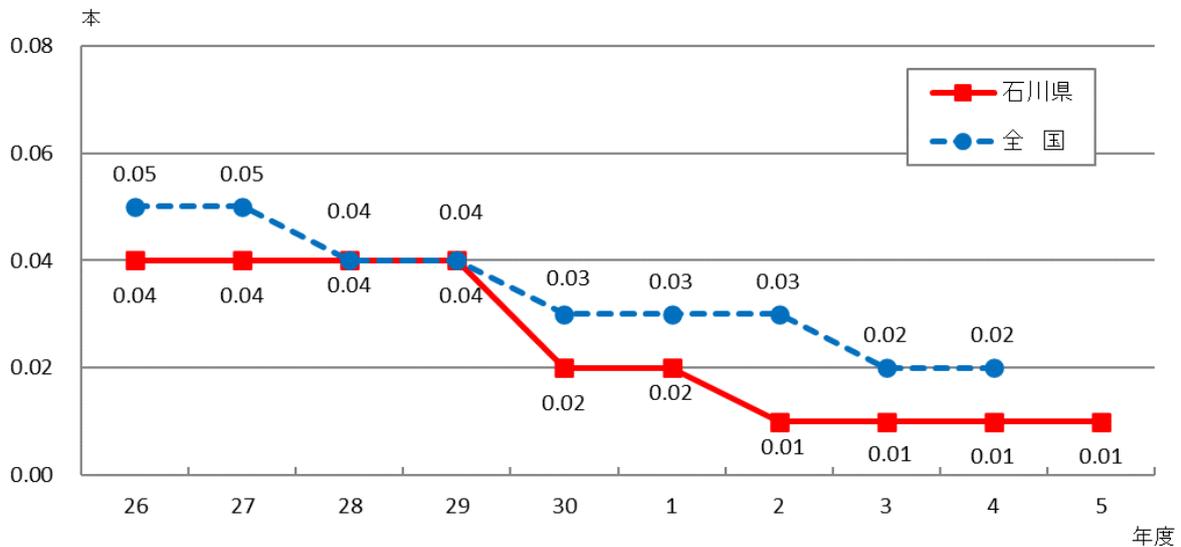


図3 1歳6か月児のむし歯有病者率（3年移動平均、保健所別） ※3年移動平均の中央年度

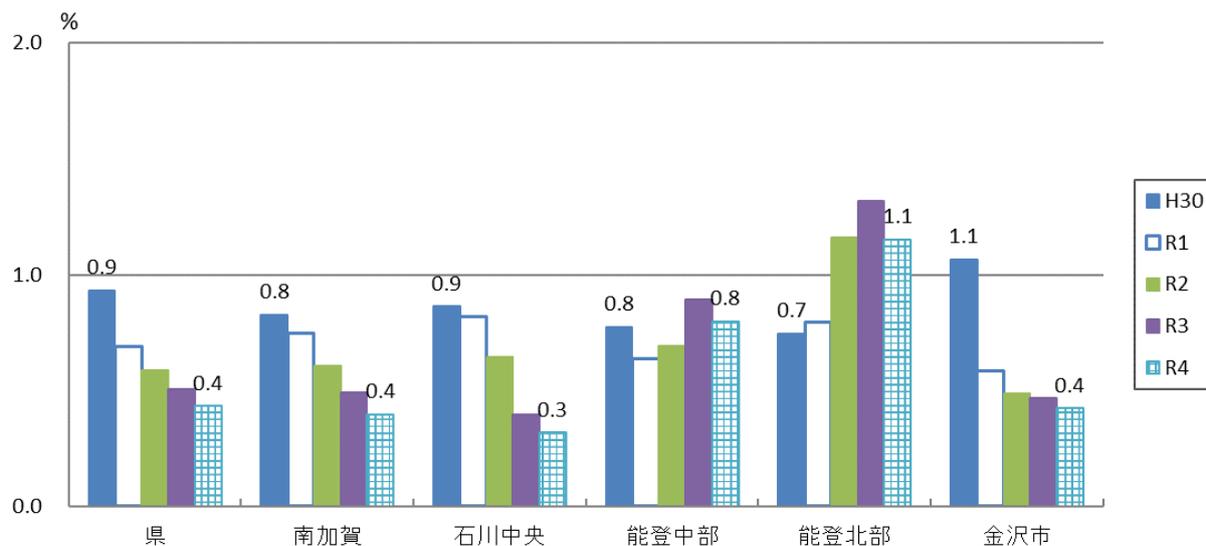
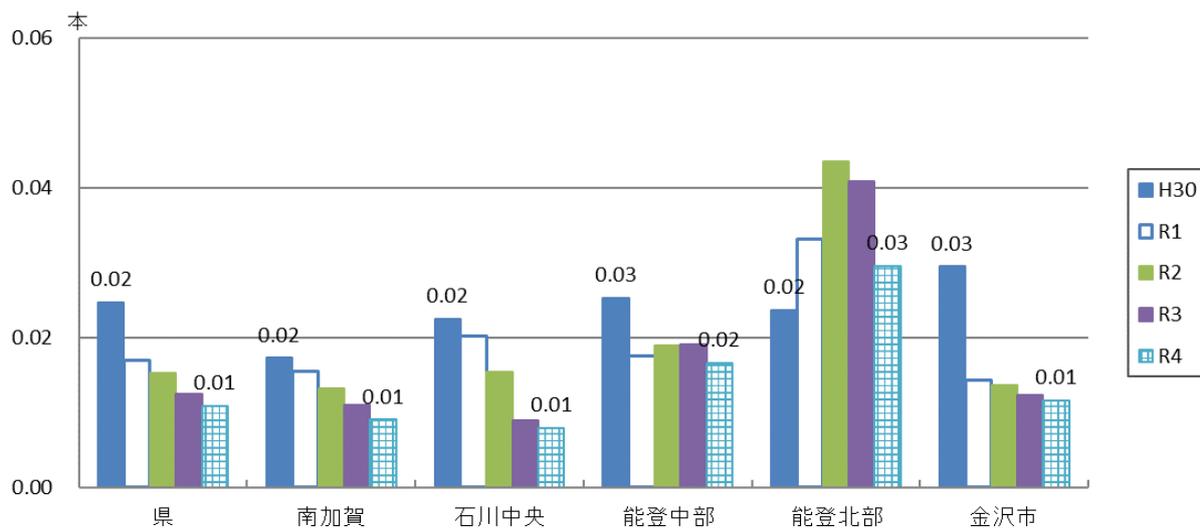


図4 1歳6か月児の一人平均むし歯数（3年移動平均、保健所別） ※3年移動平均の中央年度



2 3歳児歯科健診結果 【出典：地域保健・健康増進事業報告】

- むし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、経年的に減少しており、全国とおおむね同程度で推移しています。
- 保健所別では、能登中部・能登北部でむし歯が多い傾向にあります。
- 市町別では、経年的にむし歯が減少している市町が多い中、横ばいや増加傾向の市町もあり、有病状況に差が認められます。
- 多数歯う蝕がある者の割合は全国よりやや低く、保健所別では石川中央で低い傾向があります。

図5 3歳児のむし歯有病者率

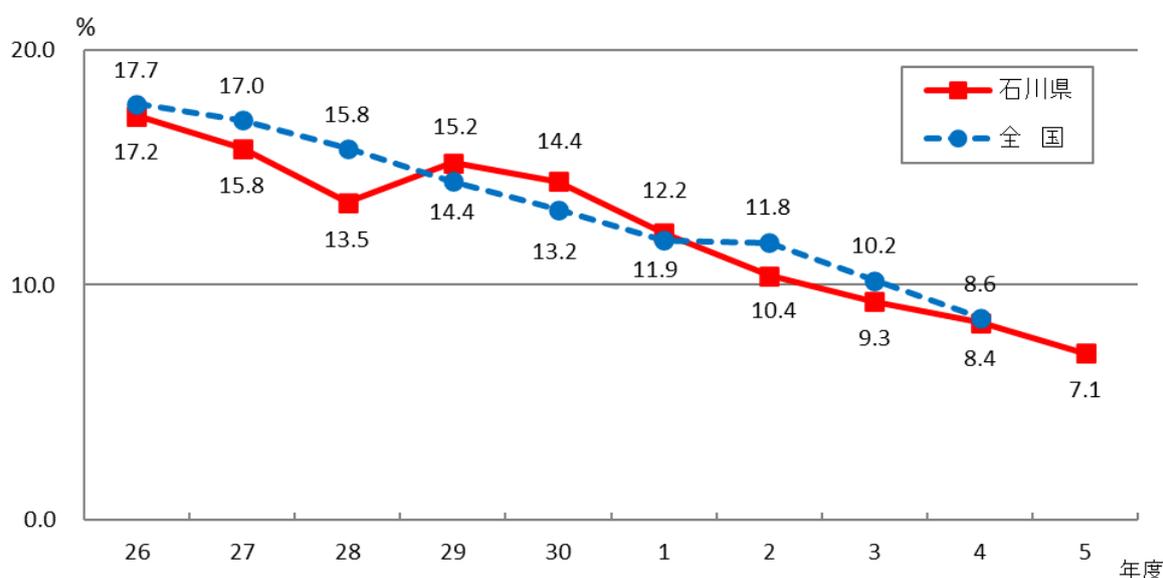


図6 3歳児の一人平均むし歯数

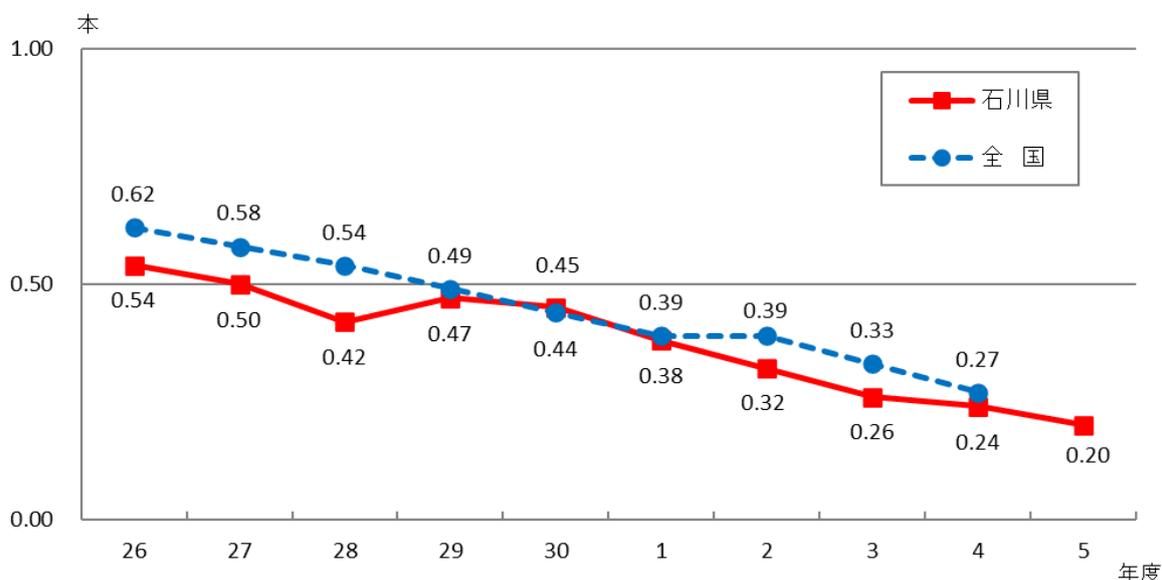


図7 3歳児のむし歯有病者率（3年移動平均、保健所別） ※3年移動平均の中央年度

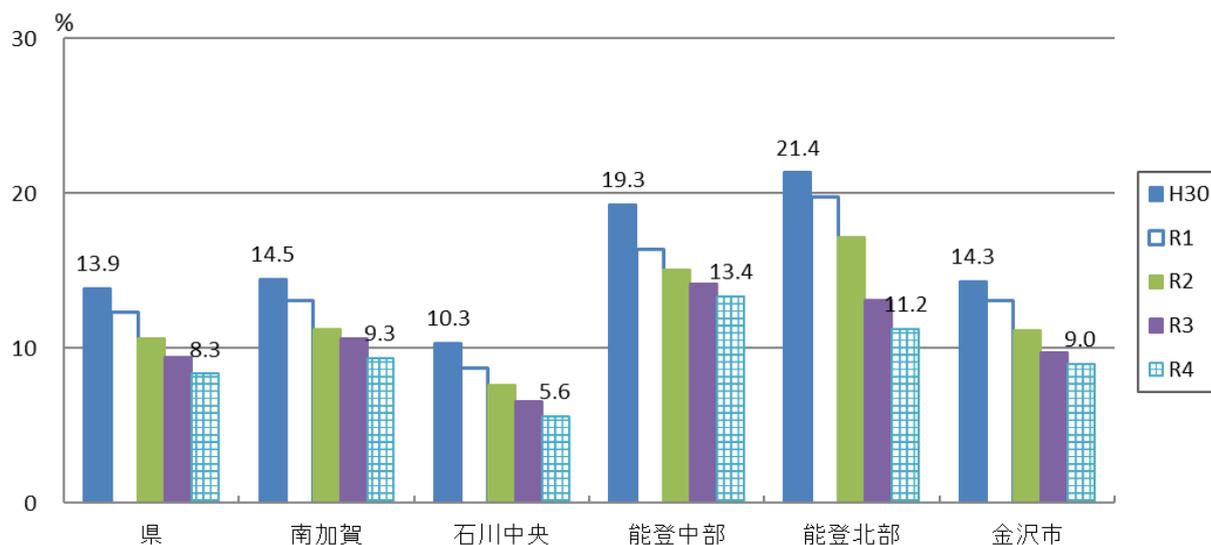


図8 3歳児の一人平均むし歯数（3年移動平均、保健所別） ※3年移動平均の中央年度

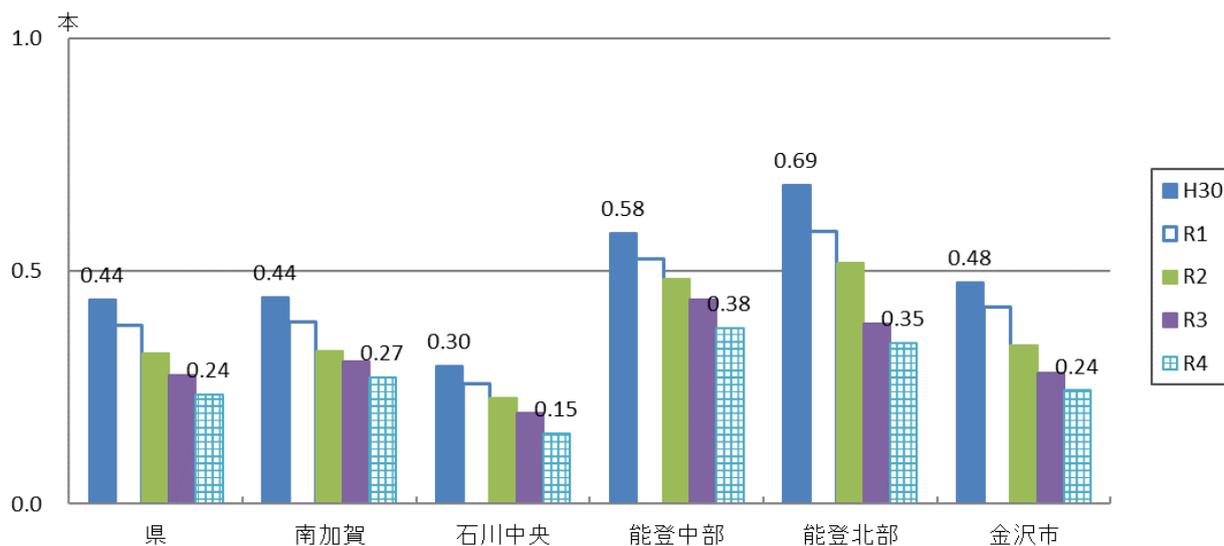


図9 3歳児のむし歯有病者率（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

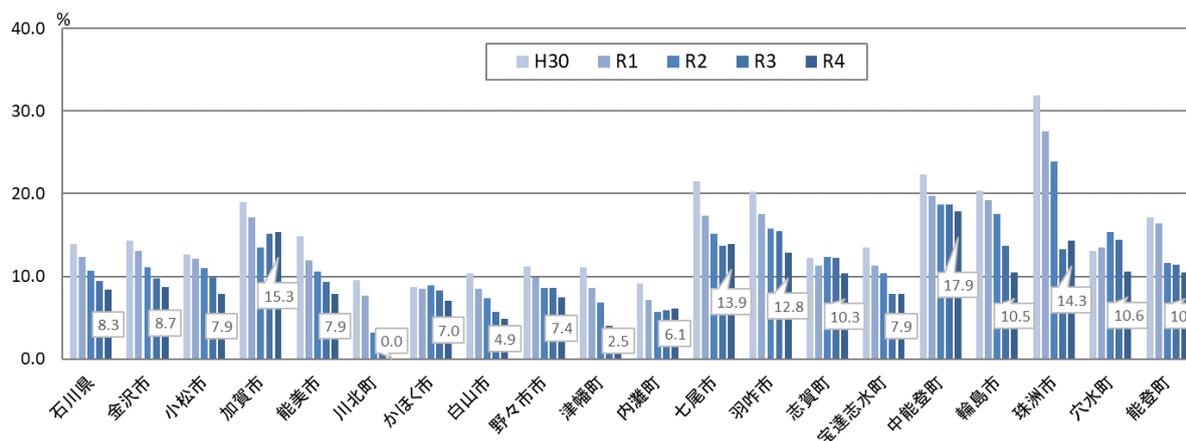


図10 3歳児の一人平均むし歯数（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

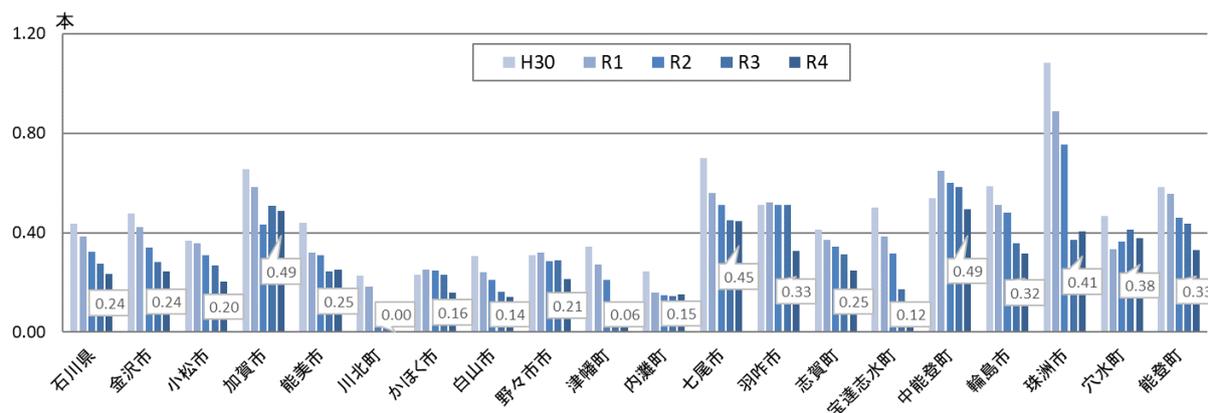


図11 3歳児で4本以上のむし歯がある者の割合

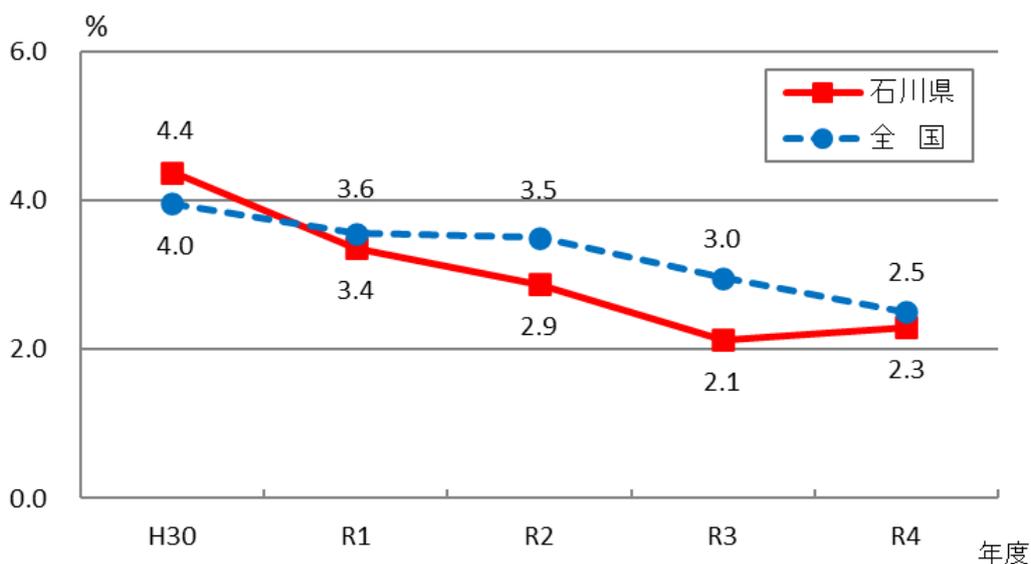
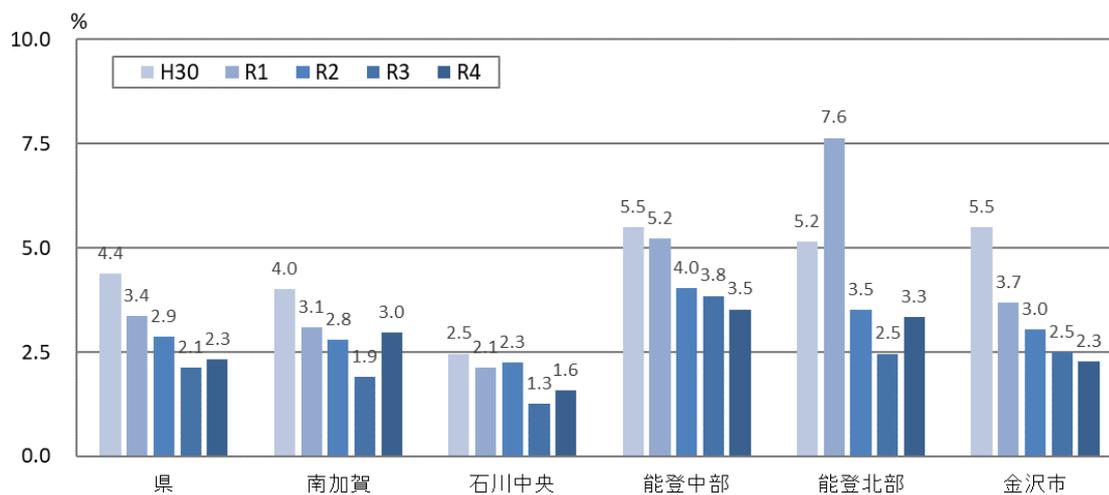


図12 3歳児で4本以上のむし歯がある者の割合（保健所別）



3 保育所・認定こども園入所児の歯科健診結果 【出典：少子化対策監室調べ】

- 乳歯のむし歯有病者率・一人平均むし歯数は、年中児、年長児ともに経年的に減少しています。
- 市町別では、年中児・年長児ともに、加賀市及び能登中部・能登北部の市町において、乳歯のむし歯有病者率が高い傾向があります。
- 年長児の永久歯（H30 まで第一大臼歯）のむし歯有病者率及び一人平均むし歯数は、年度ごとにばらつきがあるものの、近年横ばいで推移しています。
- 年長児の永久歯（H30 まで第一大臼歯）のむし歯有病者率及び一人平均むし歯数を保健所ごとに分析したところ、南加賀では減少傾向となっています。
- 保育所・認定こども園等のフッ化物洗口施設実施率は、能登北部で高くなっています。

図13 乳歯のむし歯有病者率（H27 まで金沢市を除く、H28 から金沢市を含む）

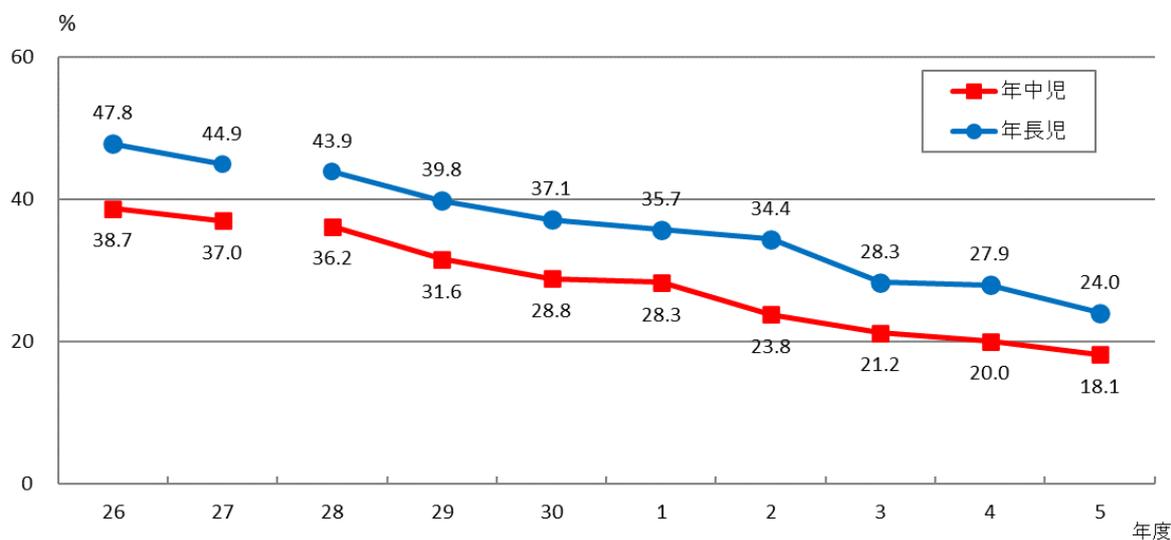


図14 乳歯の一人平均むし歯数（H27 まで金沢市を除く、H28 から金沢市を含む）

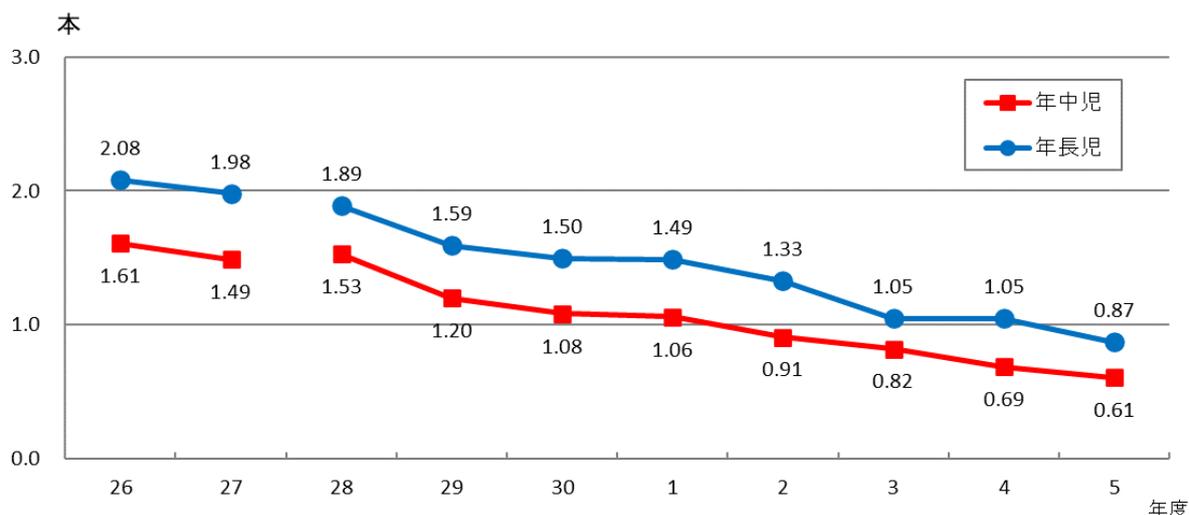


図15 年中児の乳歯のむし歯有病者率（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

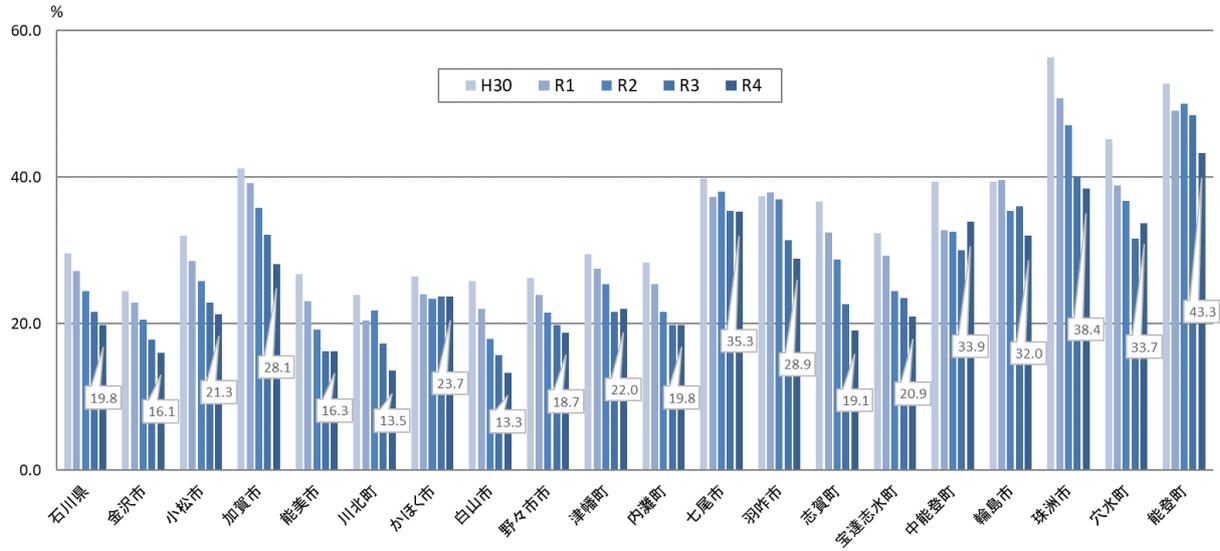


図16 年中児の乳歯の一人平均むし歯数（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

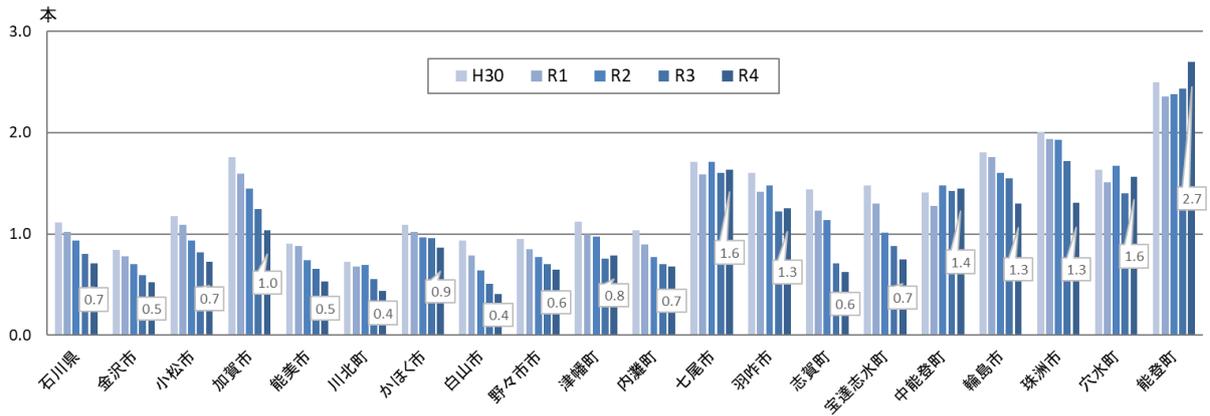


図17 年長児の乳歯のむし歯有病者率（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

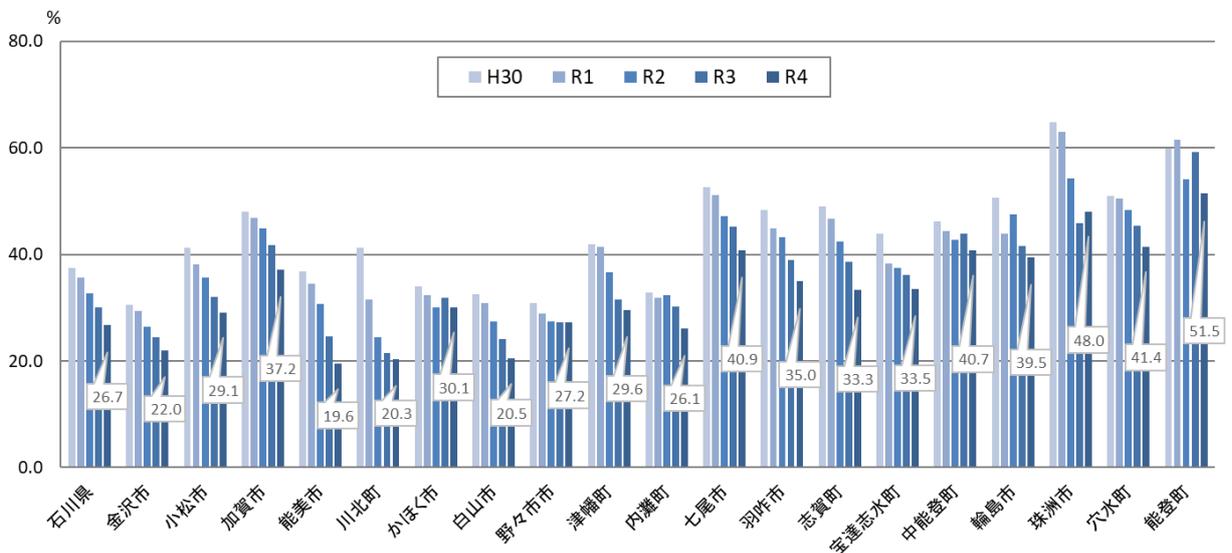


図 18 年長児の乳歯の一人平均むし歯数（3年移動平均、市町別） ※3年移動平均の中央年度

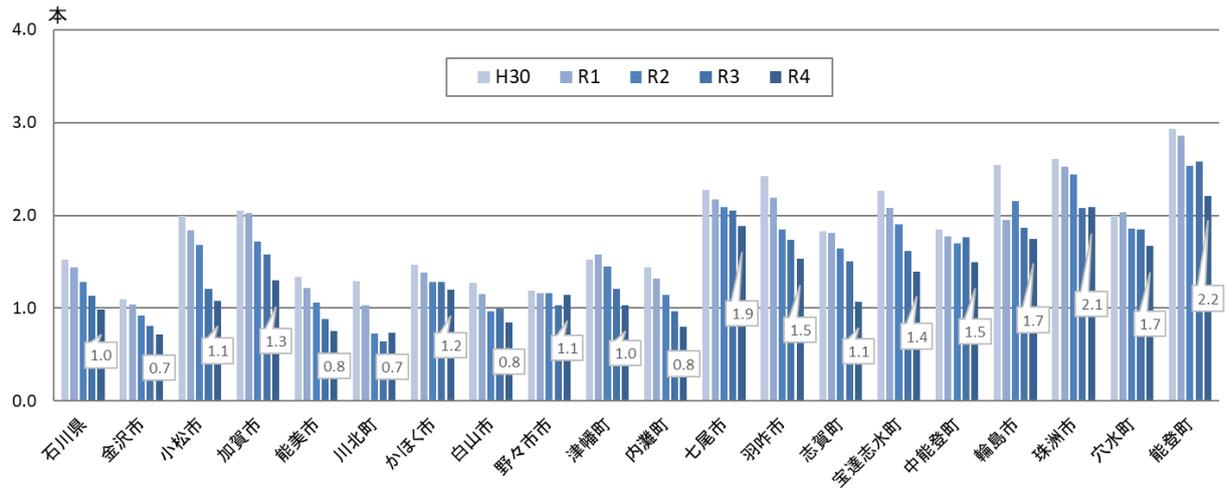


図 19 年長児の永久歯（H30 まで第一大臼歯）のむし歯有病者率（H27 まで金沢市を除く）

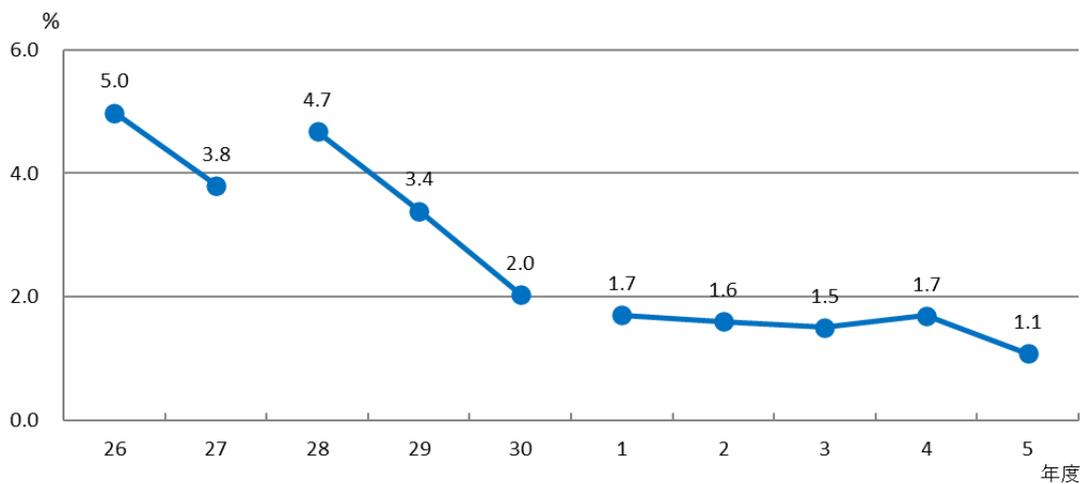
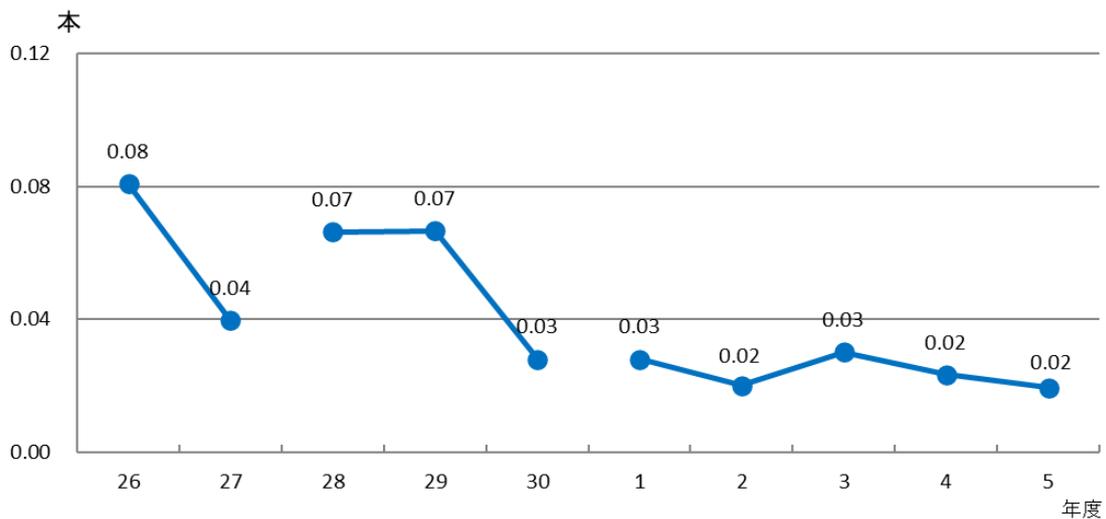


図 20 年長児の永久歯（H30 まで第一大臼歯）の一人平均むし歯数（H27 まで金沢市を除く）



4 幼稚園児のむし歯の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

○ むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、近年減少傾向で推移しており、全国と同程度となっています。

※ 令和2年度の石川県のデータは、疾病・異常の被患率等の標準誤差5%以上、受検者数が100人（5歳児は50人）未満、又は回答校が1校以下のため非公表

図24 幼稚園児のむし歯有病者率

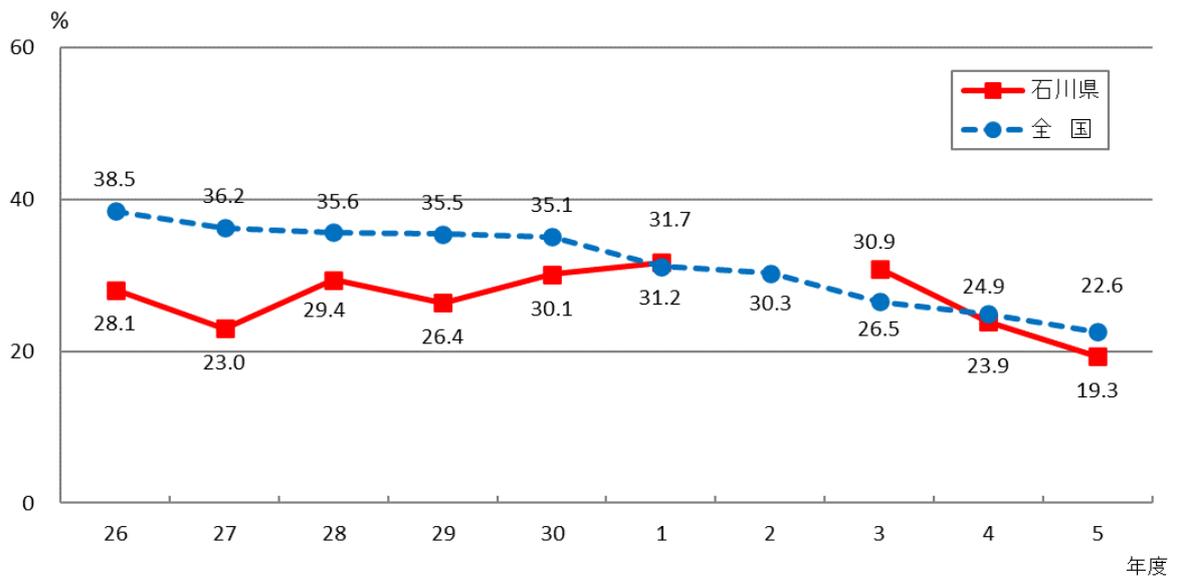
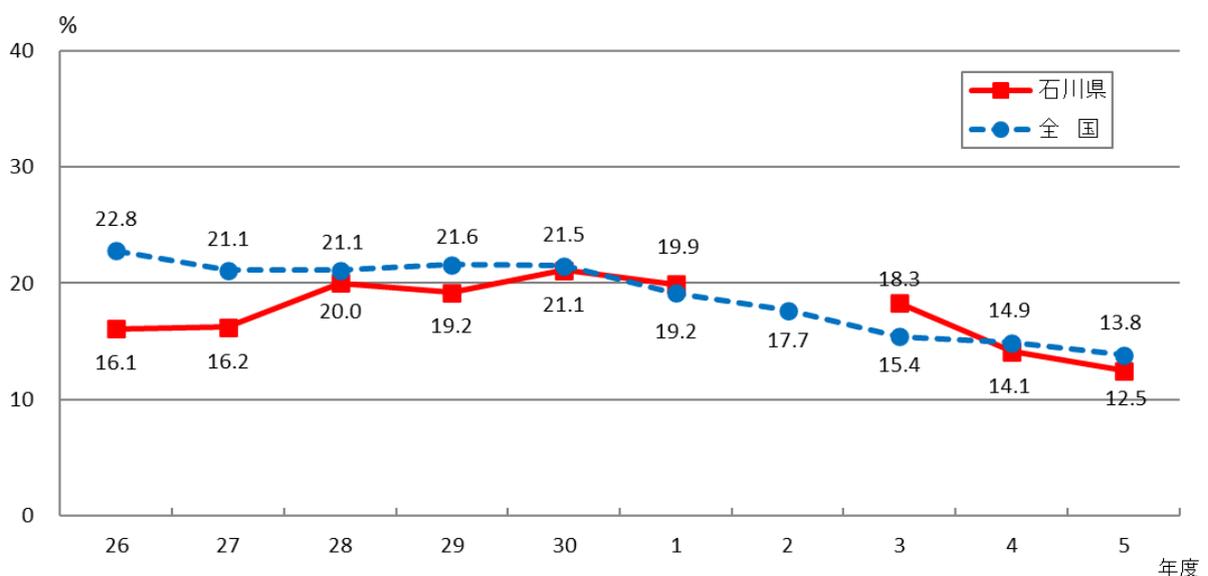


図25 幼稚園児の未処置歯がある者の割合



5 小学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率は、経年的に減少しており、全国よりやや低く推移しています。
- 未処置歯がある者の割合は、経年的に減少していますが、全国よりやや高く推移しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、全国と比較し、年度ごとのばらつきが認められます。
- 市町別のむし歯有病者率は、加賀市及び能登地区の市町で高い傾向があります。

図26 小学生のむし歯有病者率

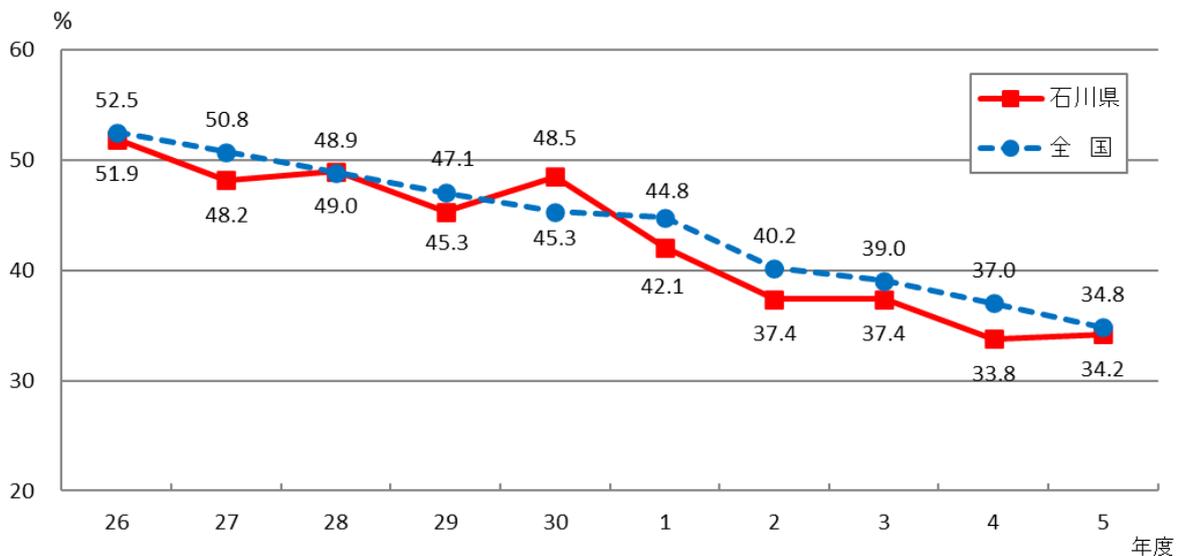


図27 小学生の未処置歯がある者の割合

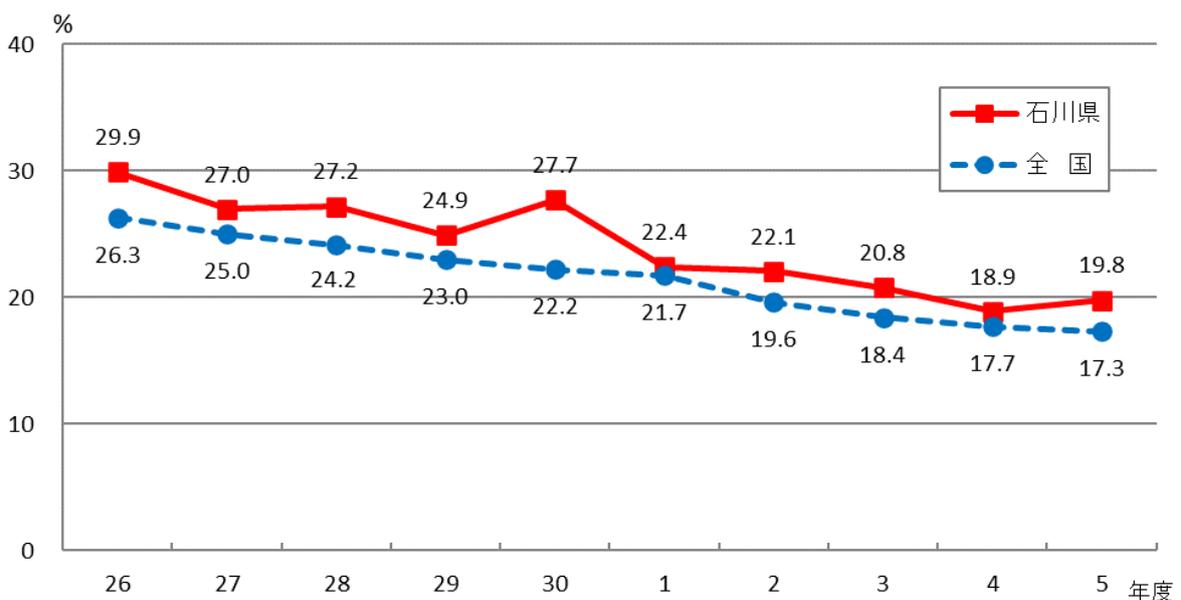


図28 小学生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

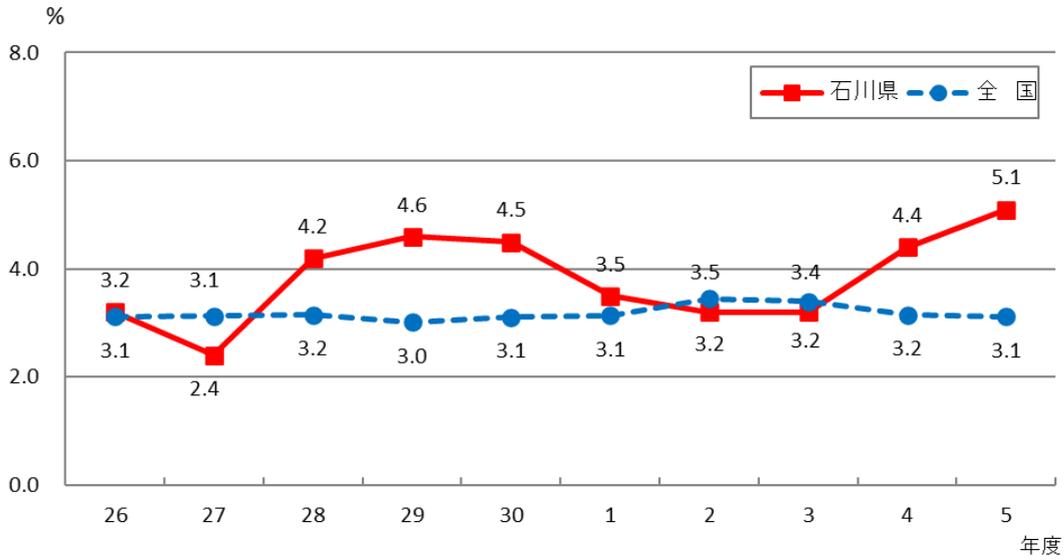


図29 小学生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合

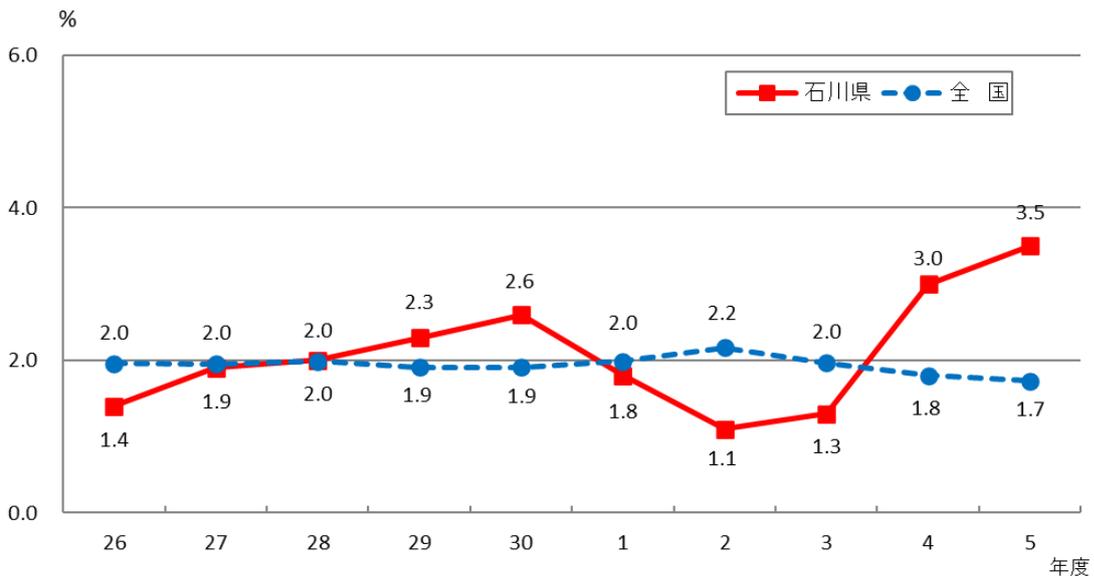
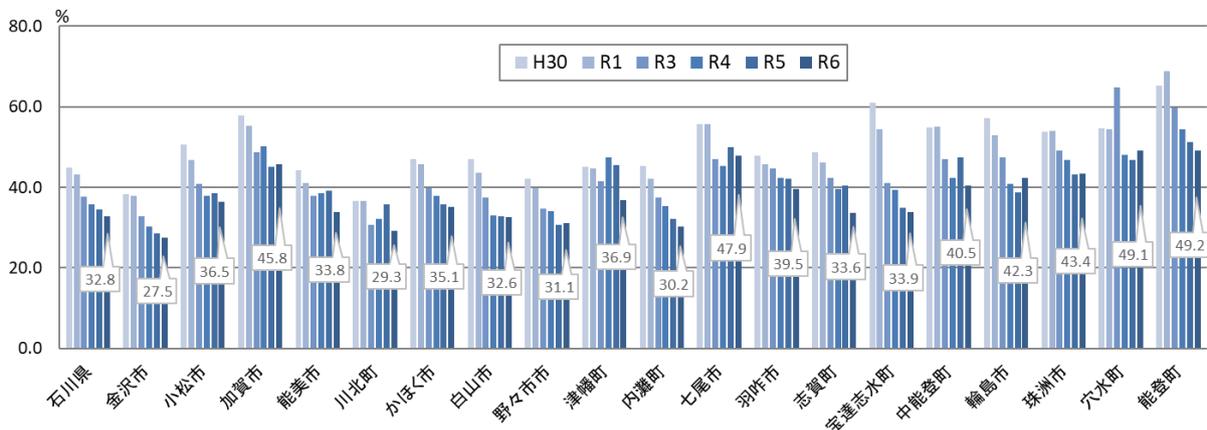


図30 小学生のむし歯有病者率（市町別）※よい歯の学校運動結果より算出



6 中学生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、経年的に減少していますが、全国よりやや高く推移しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、年度ごとのばらつきがあるものの、経年的には横ばいで推移しています。
- 市町別のむし歯有病者率は、加賀市、内灘町、七尾市、輪島市、能登町等で高い傾向があります。
- 12歳児のむし歯がない者の割合は、経年的に増加していますが、全国よりやや低く推移しています。また、12歳児の一人平均むし歯数は、経年的に減少していますが、全国よりやや高く推移しています。

図3-1 中学生のむし歯有病者率

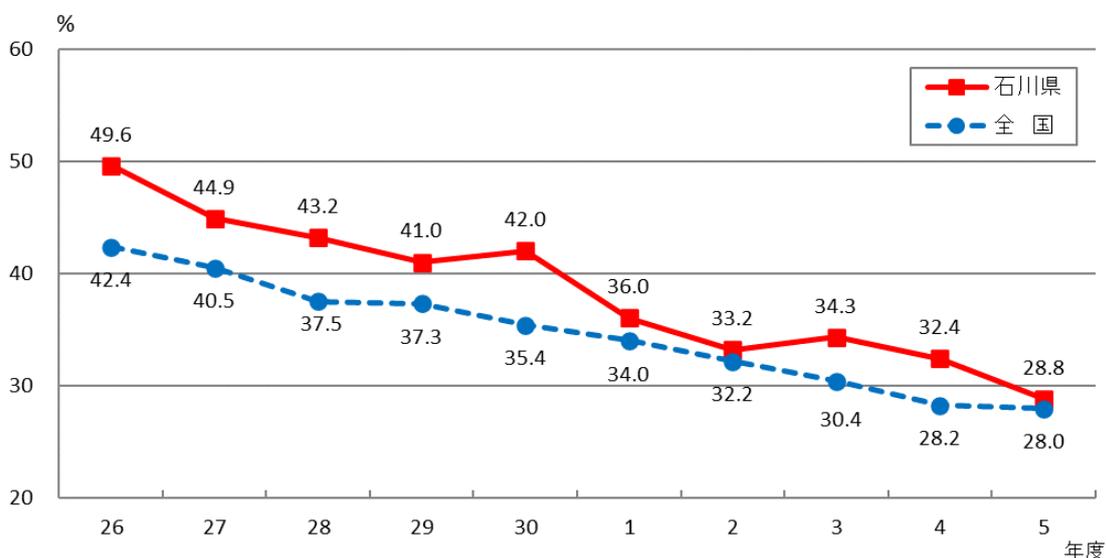


図3-2 中学生の未処置歯がある者の割合

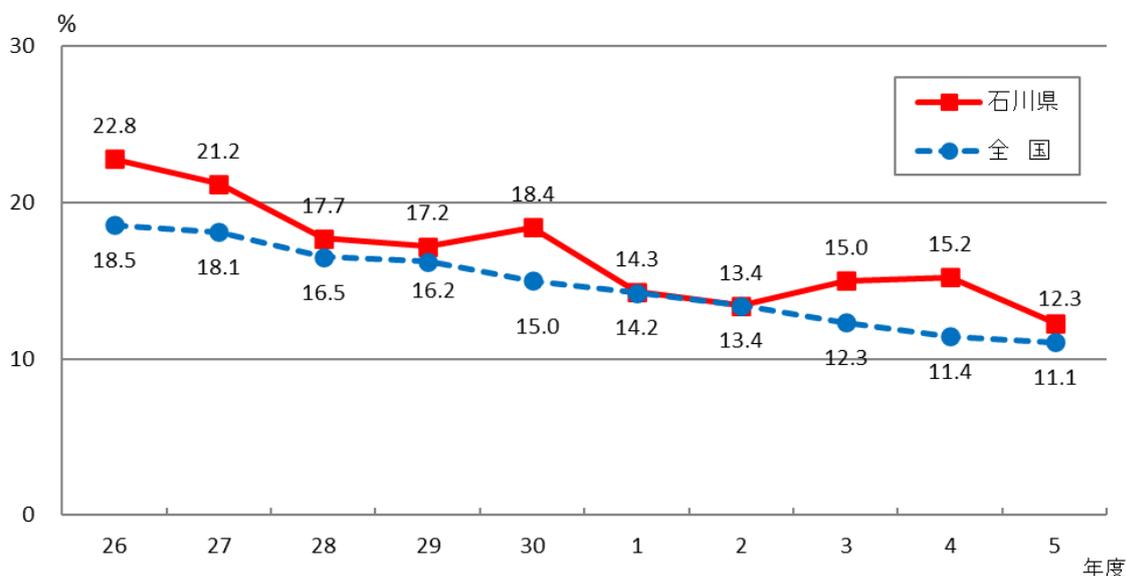


図33 中学生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

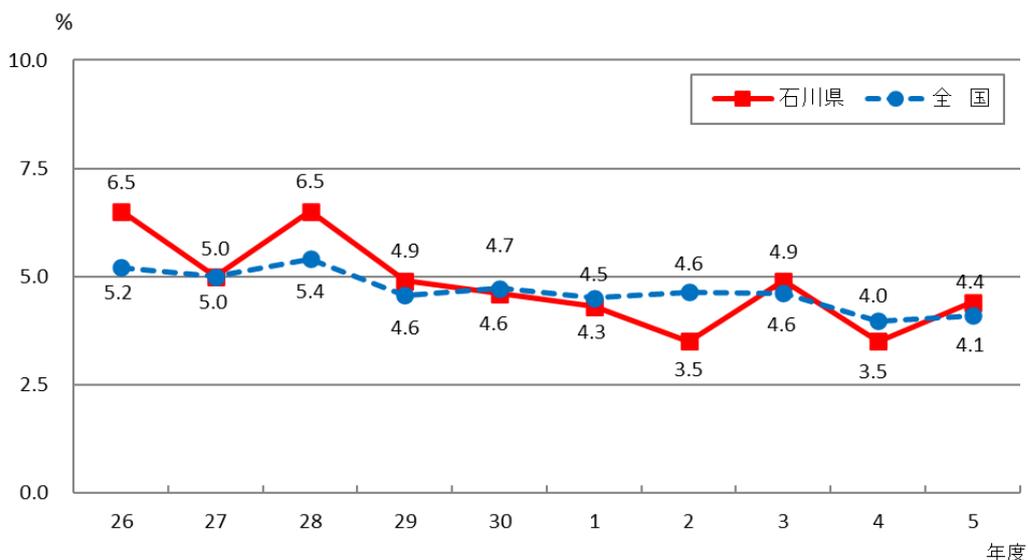


図34 中学生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合

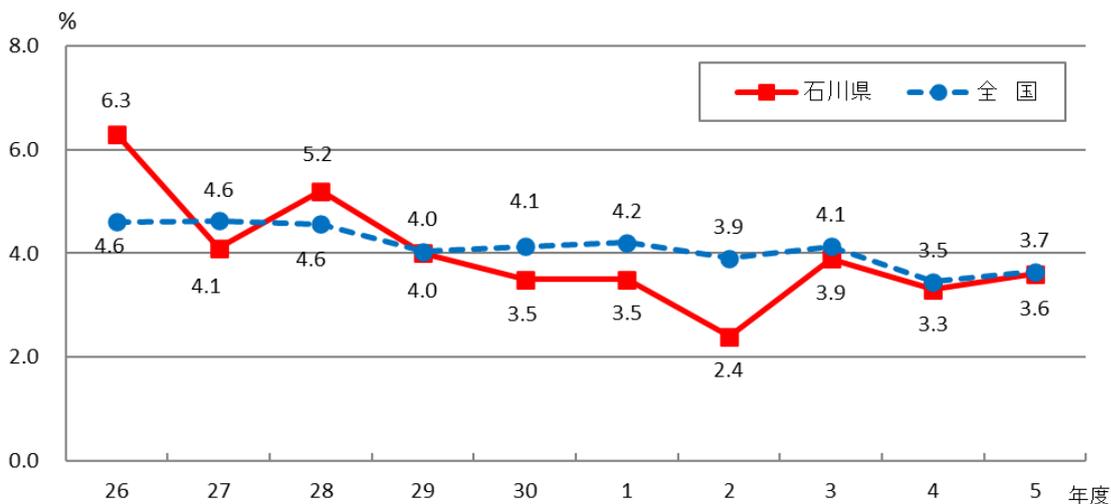


図35 中学生のむし歯有病者率（市町別）※よい歯の学校運動結果より算出

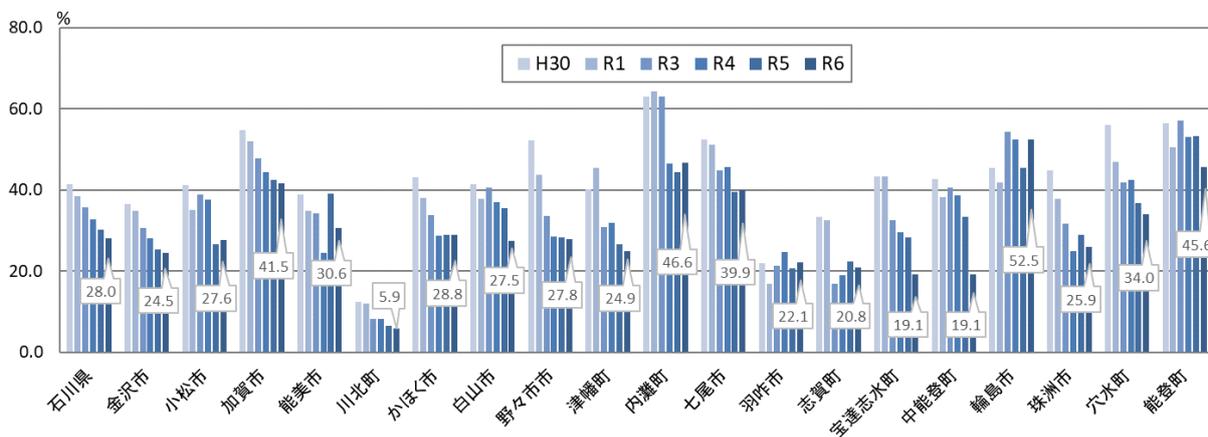


図36 12歳児のむし歯がない者の割合

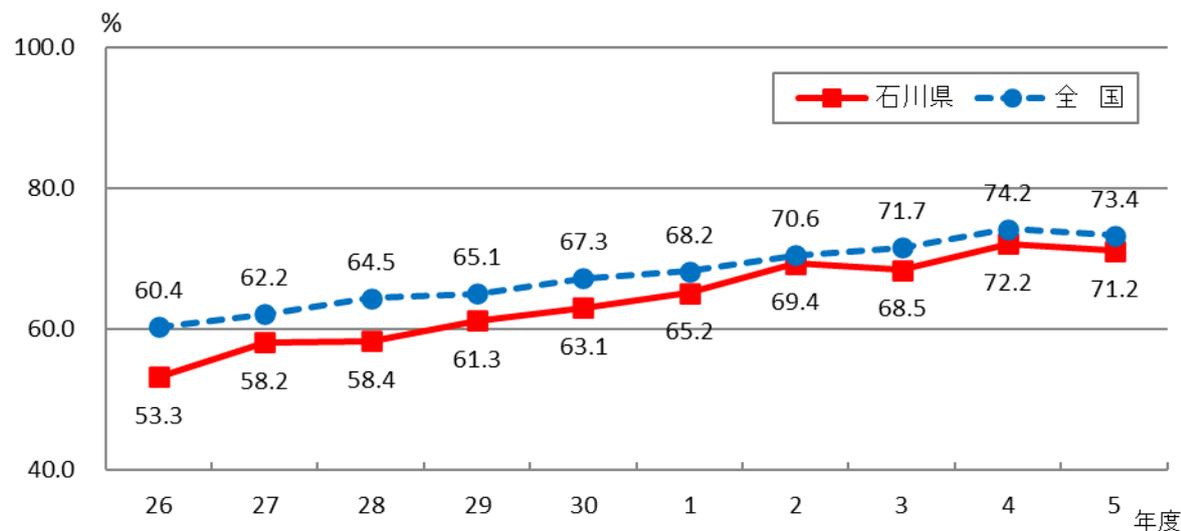
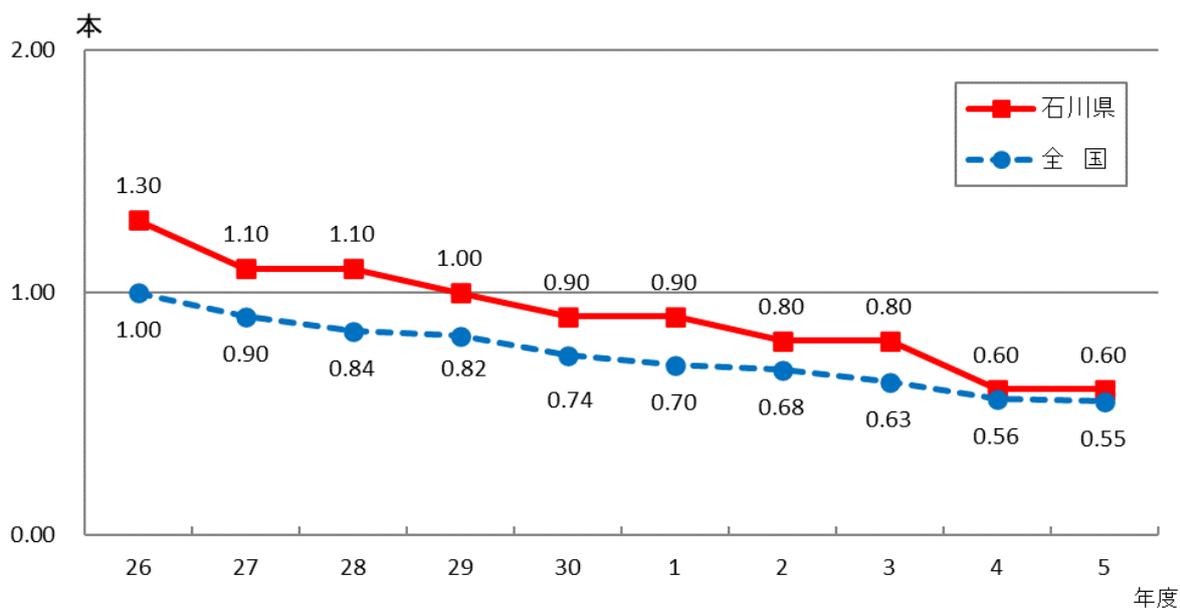


図37 12歳児の一人平均むし歯数



7 高校生のむし歯・歯肉炎の罹患状況 【出典：学校保健統計調査】

- むし歯有病者率及び未処置歯がある者の割合は、経年的に減少していますが、近年やや増加しています。
- 歯垢の付着がある者の割合及び歯肉炎がある者の割合は、全国と比較し、年度ごとのばらつきが認められます。

図38 高校生のむし歯有病者率

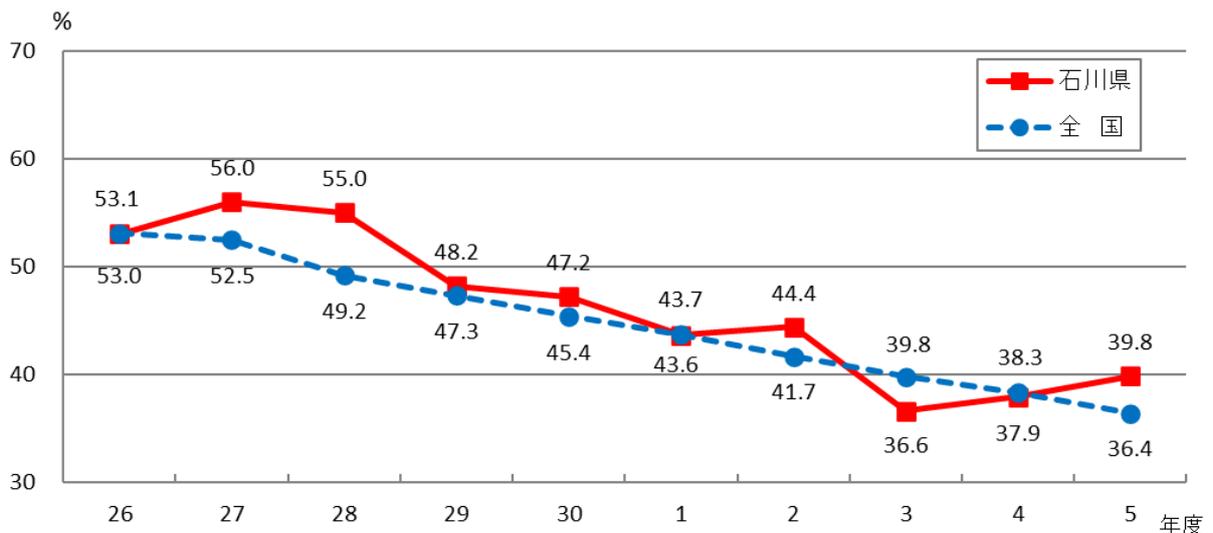


図39 高校生の未処置歯がある者の割合

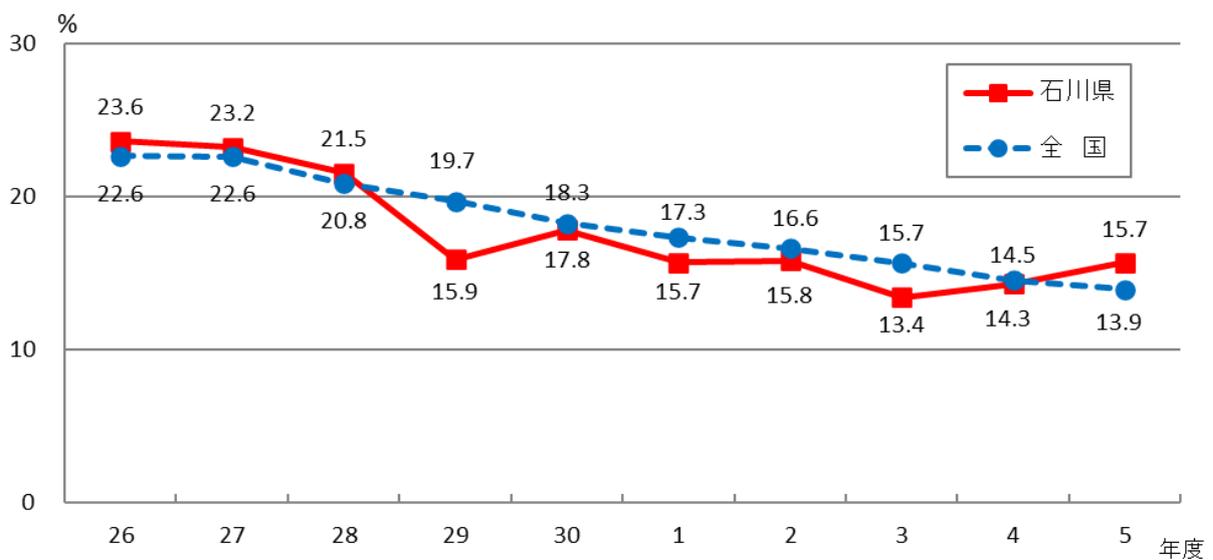


図40 高校生の歯垢の付着がある者（要受診判定者）の割合

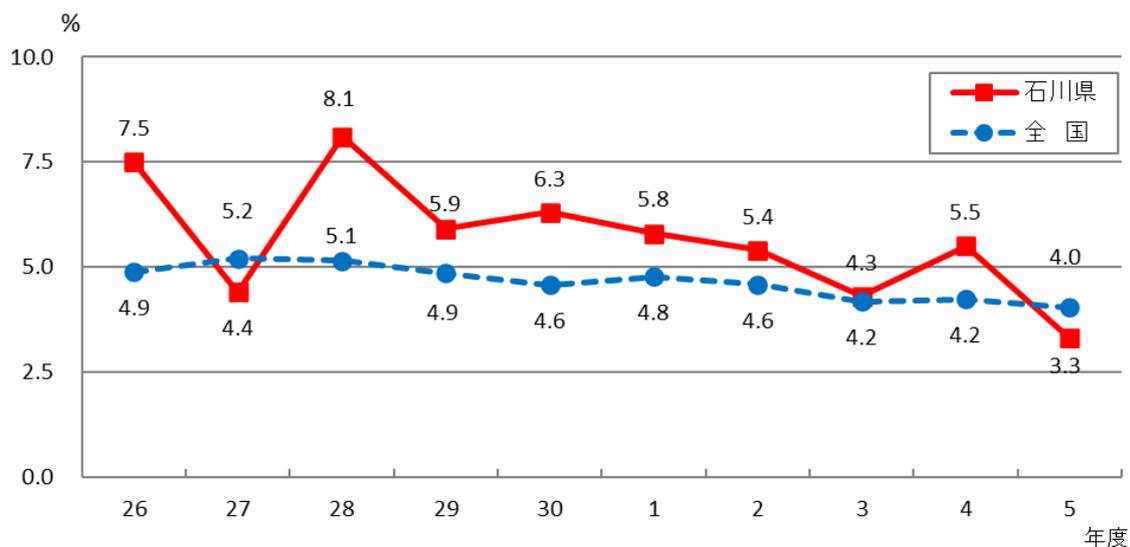


図41 高校生の歯肉炎がある者（要受診判定者）の割合

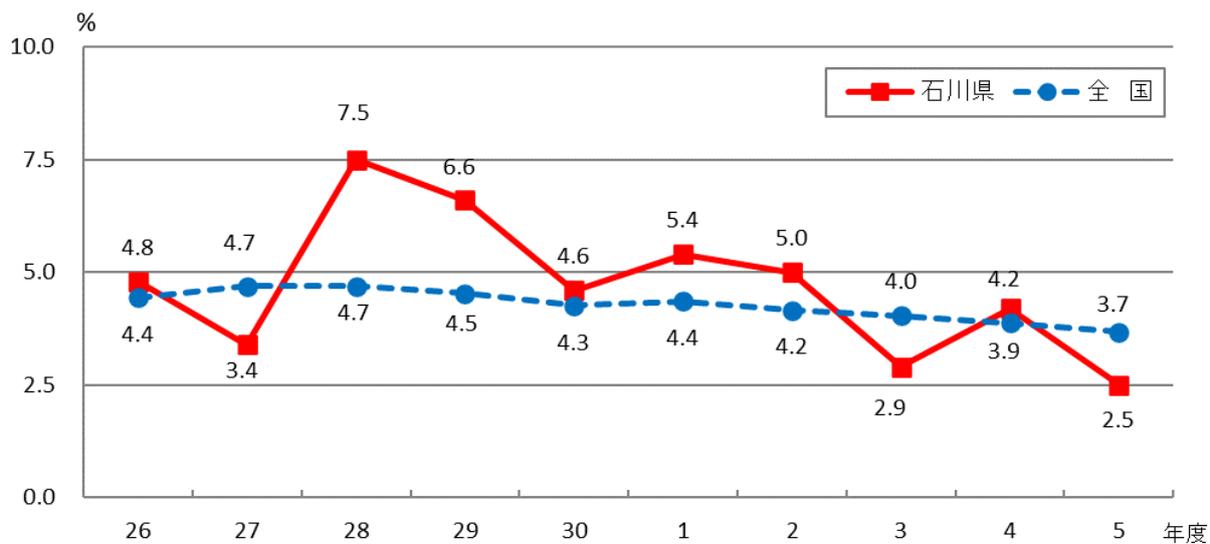


図3 喪失歯がない者の割合（年齢別）

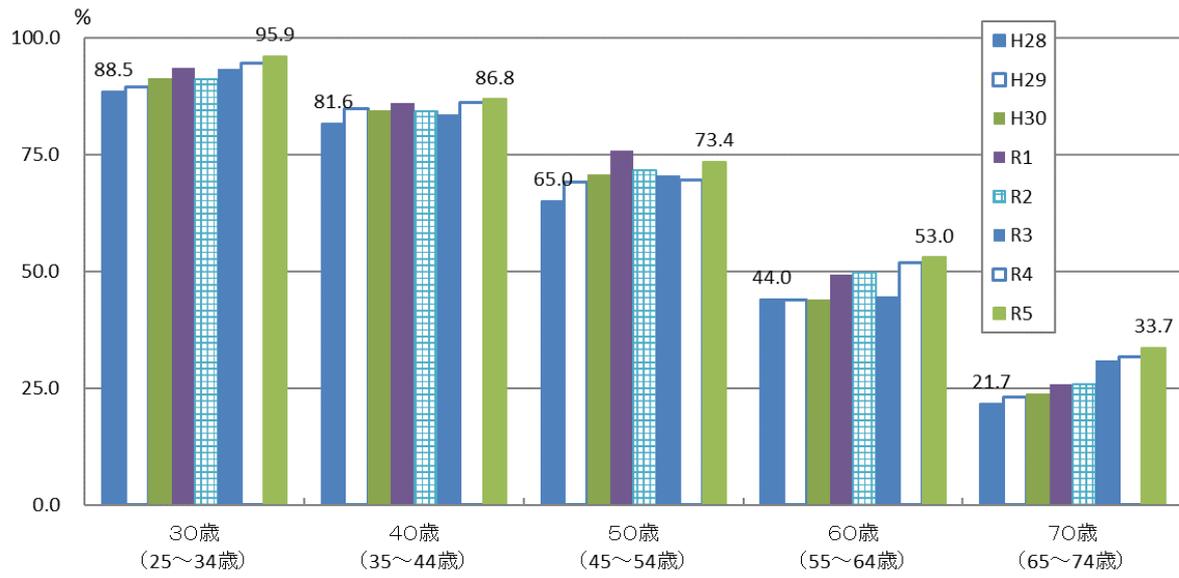


図6 未処置歯がある者の割合（保健所別、節目年齢のみ）

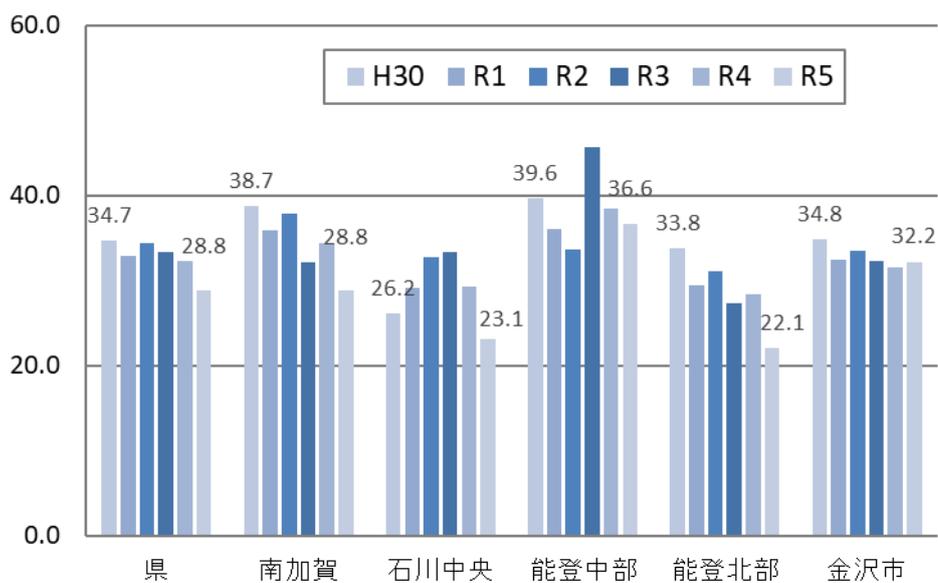


図7 喪失歯がない者の割合（保健所別、節目年齢のみ）

